

マリンバ演奏に捧げた ジーン・ショーさんの生涯



マリンバとはどんな楽器でしょう。木琴は同じ仲間ですが大きさが違います。各音板も木琴より肉厚の上に金属の共鳴筒がすべての音板の下に並んでいるので柔らかく豊かな響きがあり、低音には、こもったぬくもりさえ感じられます。マリンバ独特の、この優しい音色にジーン・ショーさんは魅かれていったのです。

ジーン・ショーさんと木琴（シロフォン）との出会いはニューヨークでした。当時日本での木琴のスペシャリスト平岡養一の独演会が開かれ、ジーンさんは父親に連れられて出かけました。初めて聞いたその軽やかな音色に魅せられたジーンさんは自分も習いたいとねだったところ、父親はかねがね娘には何か楽器を習わせたいと思っていた矢先だったので二の返事で承諾しました。

マリンバも木琴も起源はアフリカですが、マリンバが広がって行った地はラテンアメリカで、木琴（シロフォン）の方はヨーロッパでした。1910年代からアメリカではポピュラ

ー音楽やジャズに用いられましたが、それ以前は中南米の民族音楽としてとくにグワテマラが本場でした。エクアドルでもアフリカから渡ってきた人たちが住んでいる村があり、そこではマリンバの原型とおもわれる楽器を使っていました。私たちが村をたずねた時にみせてもらったことがあります。

「マリンバの調べ」はジーン・ショーさんの編曲とロイス・バスコネスさんのピアノ伴奏が人気を呼びHCJB制作の長寿番組となりました。スタジオで毎週録音したのですが、その時はさすがに音楽家としての厳しい面をみせられました。練習はもとより本番でのダメ出しを繰り返しながらの収録でした。マリンバの上には「置物厳禁」というサインが置かれ、演奏会場への重いマリンバの持ち運びにも気をつかいました。冗談まじりに「フルートなら軽いのに」とこぼしていたのを思い出します。特製チーズケーキが得意でよく自宅によばれてご馳走になりました。廊下には演奏会で着る晴れ姿のドレスが数多く並んでいました。



日本語のリスナーのために日本の曲を選んでもらった時は、「日本名歌百曲集」の本から選んでもらいました。「さくらさくら」のほかにジーンさんが最初に選んだ曲は「浜辺の歌」でした。「かつぼれかつぼれ」の軽妙なテンポが気に入って、「平城山」は日本情緒が身にしみたと感じたようでした。HCJBはエクアドルで初めてラジオ放送を実現させただけでなく、テレビ局も最初に開局しました。「日本特集」の番組の制作に私たちも駆り出され、ジーン・ショーさんにも着物姿で特別出演してもらいました。演奏するのにタスキがけをするわけにもいかず着物の袖が邪魔だったに違いありません。私といっしょに日本で演奏旅行しようという夢が受け入れられなかったときのジーンさんの涙顔に今も心がいたみます。

1981年4月。14年間のHCJBでの音楽家として巾広い活躍を終えてシカゴにもどったジーンさんは病に倒れ、親族・友人に見守られながら静かに旅立っていきました。天国では「善い忠実な僕よ。よくやった！」というねぎらいの言葉で天使たちに迎えられたことでしょう。そして、ジーンさんのマリンバ演奏は、今も、軽快なリズムに乗って、広い大空を駆けめぐり、地上の人々に慰めと勇気と希望をおくりつづけているのです。「人が死んでのちに残るのは、集めたものではなくて散らしたものである」ジェラルド・シャンドリー

サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送		淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送	
11月05日	クリスチーンのアメリカ新発見：ジョージア州	11月06日	聖書遊覧バス：旧約聖書ヨシュア記（2）
11月12日	南米ふれあいの旅：高島総元（ブラジル・サンパウロ州）	11月13日	リスナーからの「お便り交換の時間」
11月19日	マリンバの調べ：トルコ行進曲ほか	11月20日	聖書遊覧バス：旧約聖書ヨシュア記（3）
11月26日	女ばかり南米をゆく：壮大！マチュピチュの遺跡	11月27日	聖書遊覧バス：旧約聖書ヨシュア記（4）

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間 午前7時半～8時 15.420kHz （再放送） 午後8時～8時30分 11.905kHz
（米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信）

